

# Wilhelm Camp(ヴィルヘルム キャンプ)へのご招待

東北大学病院 診療技術部 放射線部門  
佐藤 和宏

Wilhelm Campとは?

Wilhelm Campの由来は、レントゲン博士 (Wilhelm Conrad Röntgen)のファーストネームであるWilhelm と基礎訓練を意味するboot campを組み合わせた造語である。この企画では論文投稿の意志がある方に対して、データの取得や実験の仕方、学会発表の手助けをしながら、発表内容の論文化を目的としている。

なぜ論文が必要なのか?

学会発表とは、研究成果は出たものの論文にするにはまだ早いという段階での報告である。そのため、論文を作成する前に研究内容や成果について専門家から意見をもらい批判を仰がなくてはならない。発表時における発表者と専門家との討論はとても重要である。そのため学会発表は発表者のみならず聴衆にとっても大切なものである。

しかし、学会発表とは研究成果の発表として仮のものである。学会で発表しただけでは、正式に研究成果が認められない。すなわち、たくさんのエネルギーと労力を消費しながら多数の研究発表を行っても、研究者としての実績はゼロである。また、学会発表は短時間で終了してしまうため、聴衆に研究内容を正確に伝えることはほぼ不可能に近い。さらに、記録に残る情報量がほとんどないため、後日、他の研究者が研究内容を参照することが困難である。

このようなことから、日本放射線技術学会では研究発表の論文化を推奨している。論文にすることによって研究成果の価値が認められ、また研究者の実績となる。研究者であれば誰もが研究成果を認めてもらいたいと思っているはずである。そのためには、研究者が自分の主張を理論的に、また具体的に伝える媒体が必要であり、それが論文である。研究成果を論文にまとめ、公にすることによって、研究者同志はもちろん世の中の多くの方々にその成果が認められる。

活動内容(案)とSergeant

開催は来年度からで、年に2回、3～4時間程度のプログラムを予定している。開催時期や会場、内容の詳細については決まり次第、日本放射線技術学会または技術学会東北支部のホームページなどを通じて案内する。まだ案の段階ではあるが具体的な企画として、前抄録の書き方、解りやすい発表用スライドの作成方法や、国際研究集会(北米放射線学会やヨーロッパ放射線学会など、いわゆる国際学会)に参加した方の経験談、投稿論文の作成方法、などを予定している。また、参加者のみならずいろいろな方からの要望を聞きながら、参加者にとってメリットになるようなテーマを取り上げていく。

Sergeant(指導員)は現在学術研究集会等で大活躍しており、かつ実績を持った方ばかりである。具体的には、国内学会で表彰歴のある方や日本放射線技術学会誌に論文が掲載されたことがある方、国際研究集会で発表歴のある方をノミネートしている。また、いずれの方も学位(博士)取得を目指して現在奮闘中である。そのため、自らの豊富な経験を基にきめ細やかで適切な指導が期待できる。

参加者にとって研究発表や論文について考え直し、新たな心境で取り組む機会になるようSergeant一同努力していくつもりである。

スタッフ

担当理事 : 船水 憲一 (つがる総合病院)

Sergeant : 佐藤 和宏 (東北大学病院)

風間 清子 (新潟手の外科研究所病院)

吉田 礼 (栗原中央病院)

大村 知己 (秋田県立脳血管研究センター)

後藤 光範 (宮城県立がんセンター)